

第4節 動線計画

5-4-1 全体計画

史跡来訪者が、街道及び宿場の佇まいを今に伝えている史跡の構成要素及び本質的価値を適正に理解できるような見学動線を計画する。

なお、見学動線を計画するに当たっては、散策の安全性を考慮したコースとする。

5-4-2 史跡へのアクセス

【檐下宿】

檐下宿には、羽州街道の宿尻（北西）側から、羽州街道の宿頭（南）側から、檐下バイパス（北東）側から、それぞれアクセスすることが可能で（図168）、バスで史跡を訪れる場合は檐下バイパスから進入し、宮川橋東側で乗降者するケースが多く見受けられる。（図169）

檐下宿をバスで訪問した際の乗降場所となることが多い宮川橋東側には、檐下宿のサイン表示とゴミ集積所が同居していることから、檐下宿のイメージに相応しい意匠のゴミ集積所への更新、またはゴミ集積所の移設が当策定委員会で検討され、檐下地区会主導のもと令和2年秋にゴミ集積所の美装化が実施された（図170）。

【金山越】

金山越には、市道金山線を経由して金山集落（北）側からアクセスするルートと、主要地方道上山七ヶ宿線を経由して金山峠（南）側からアクセスする2つのルートがある（図176）。

金山集落（北）側からアクセスするルートについては、市道金山線の両側に木々が生い茂り、沿道に草が繁茂していることから、車両の通行を妨げないように定期的な枝払いや沿道の除草等の管理が必要である（図172～図173）。

主要地方道上山七ヶ宿線は、毎年、冬季通行止め（11月～4月）となるため、冬季に金山峠（南）側から史跡にアクセスすることはできない。また、無住の金山集落に通じる市道金山線は、要請に応じて市道の除雪が行われている（図174）。

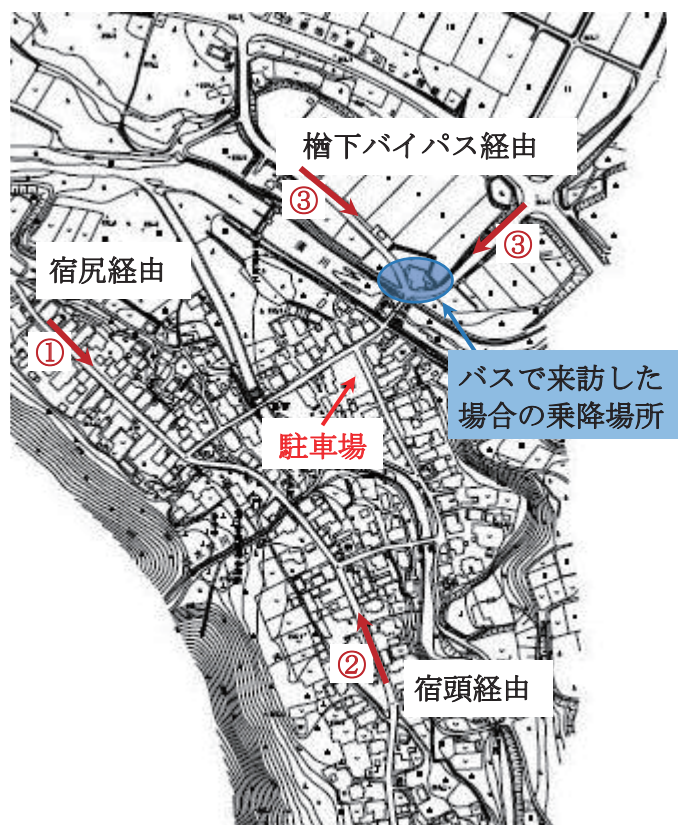


図 168 檐下宿へのアクセス経路



図 169 檐下宿にバスでアクセスする際は宮川橋東側が乗降場所となる



図 170 大型バス乗降場所の宮川橋東側にある檐下宿の表示とゴミ集積所。ゴミ集積所は檐下地区会が令和2年に美装化を実施



図 171 金山集落にある来訪者
駐車場（乗用車3台分）。上
写真奥が仮設トイレ



図 172 金山集落へのアクセス経路
（市道金山線）。市道沿いに木々が生
い茂り、沿道に草が繁茂（市民史跡保
全活動時のマイクロバスの車窓から）



図 173 アクセスルートの定期管理。
車両の通行を妨げないように、特にマ
イクロバスで来訪する市民史跡保全活
動の際は事前の枝払いや除草が必要と
なる



図 174 金山集落は無住のため、市道
金山線の除雪は要請に応じて実施



図 175 金山峠付近にある来訪者駐車
場（乗用車2台分）



図 176 金山越へのアクセス

5-4-3 関連道路

【檜下宿】

檜下宿には、羽州街道に沿いに2つの小路が存在している（図177）。1つは上町と横町を結ぶ道、もう一つは、檜下公民館（旧福聚寺）と新町を結ぶ道で、この2つの小路を利用すると、宿場内の街道を利用することなく宿尻と宿頭の間を移動することが可能である。

いずれの小路も、幅員は約2m（約1間）で、上町北東の小路から上町方面を眺望したときに見える石垣群は美しい景観である（図180）。



図 178 羽州街道と小路の分岐点（上町）



図 179 檜下宿の小路（上町の北東側）



図 180 上町北東の小路からの上町を望む

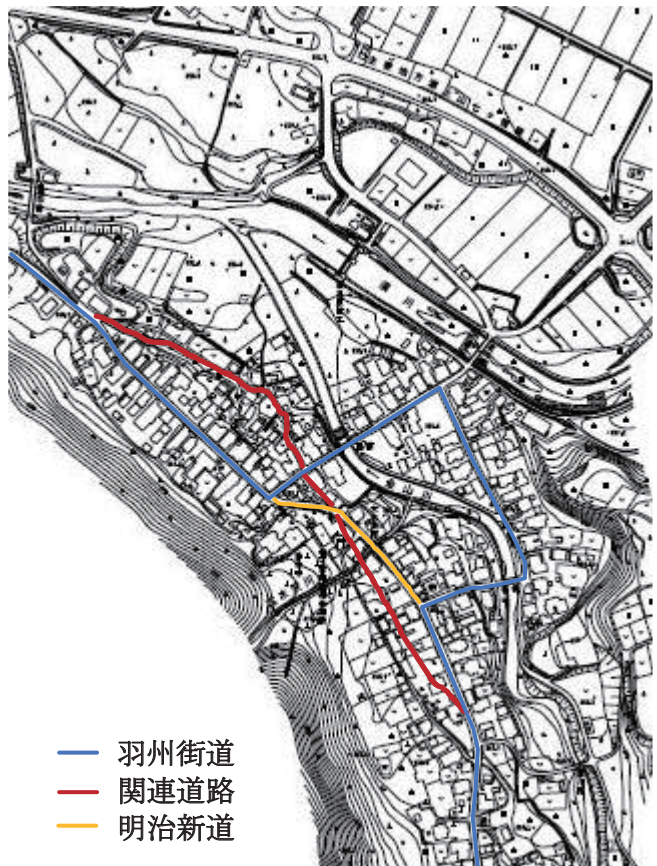


図 177 檜下宿の羽州街道と関連道路



図 181 羽州街道と小路の分岐点（新町）



図 182 檜下宿の小路（新町の西側）

檜下地区内の非常道路

腕用ポンプ時代に、近隣部落との火災時応援の関係上、地区内非常道路の必要性を痛感し、当時の消防団が主体となり改修に着手した。

- 1 嘉平（※兵）橋より惣蔵氏の土地側を通り、須田板へ直接に通じる道路
- 2 安之助氏の所より裏道を通り、上町県道に通じる道路
- 3 下町めがね橋より河岸を通り、栄蔵氏前に通ずる道路
- 4 公民館墓所地前を通り、貞子さん前県道に通じる道路

※現在の非常道路は道幅も広くなり、完全アスファルトで自動車ポンプも非常の場合十分活動出来る立派な道路に改修されている。

～「羽州街道檜下宿駅の歩み／丹野文右衛門著／平成 18（2006）年 3 月 1 日発行」より～



図 183 明治 6 (1873) 年檜下町屋敷割図。明治 16 (1883) 年築造の明治新道の記載無し



図 184 明治 22 (1889) 年檜下町屋敷割図。上町と新町を結ぶ明治新道の記載有り

5-4-4 主要動線

【檐下宿】

(1) 宿場の記憶をたどる道／檐下宿江戸下りコース／フルコース／所要時間約75分

宿頭→新町→橋本屋→新橋→庄内屋→下町→大黒屋→横町→硯橋→山田屋→旧福聚寺参道→
旧福聚寺跡→浄休寺→上町→宿尻



図 185 宿場の記憶をたどる道／フルコース

(1) 宿場の記憶をたどる道／櫓下宿江戸下りコース／フルコース／所要時間約75分

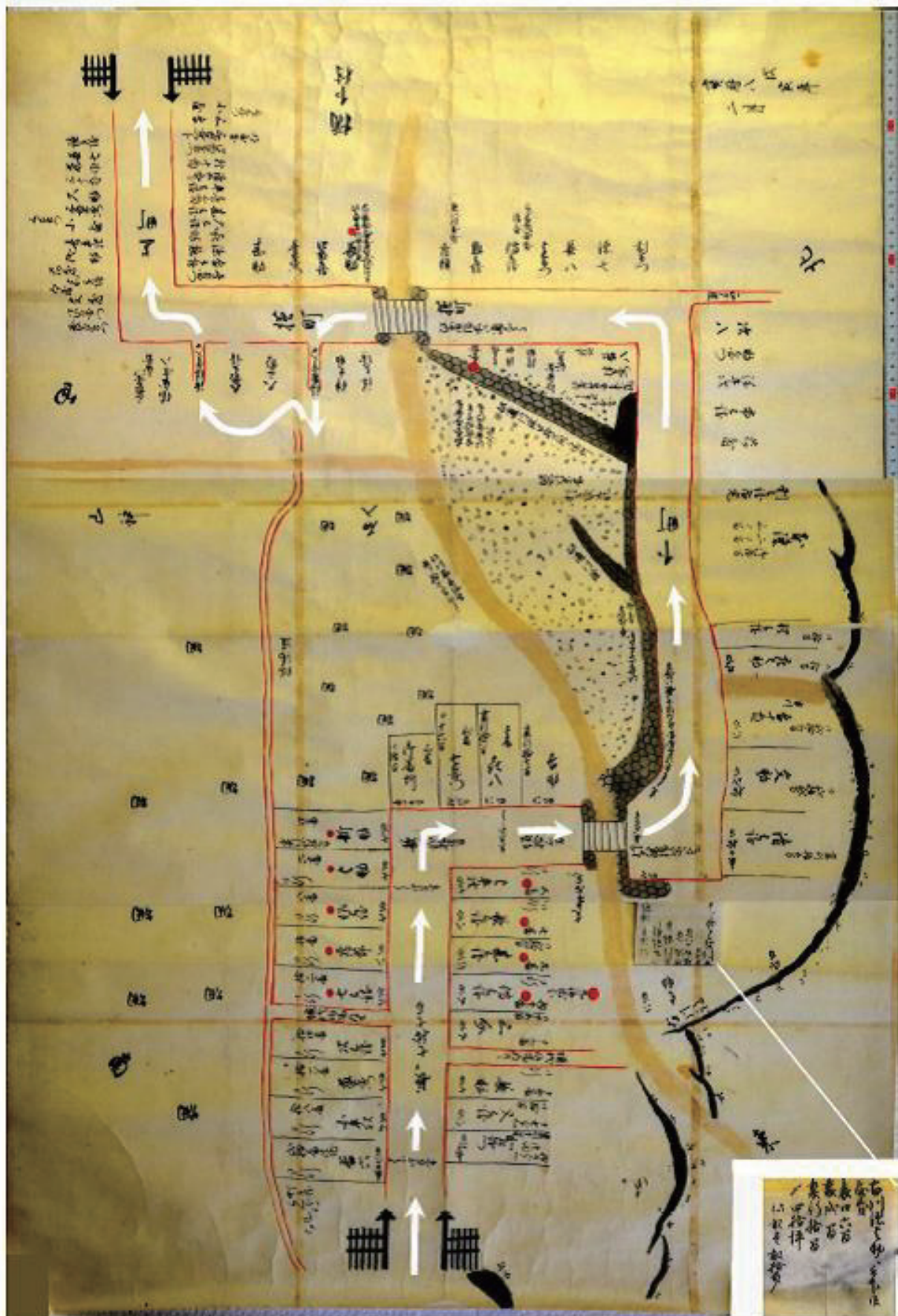


図186「宝暦8（1758）年櫓下村絵図」に見学動線（白矢印）を記入

(2) 宿場の記憶をたどる道／ショートコース／所要時間約60分

大黒屋→下町→庄内屋→新橋→橋本屋→下町→金山川沿いの小路→視橋→山田屋→横町→大黒屋

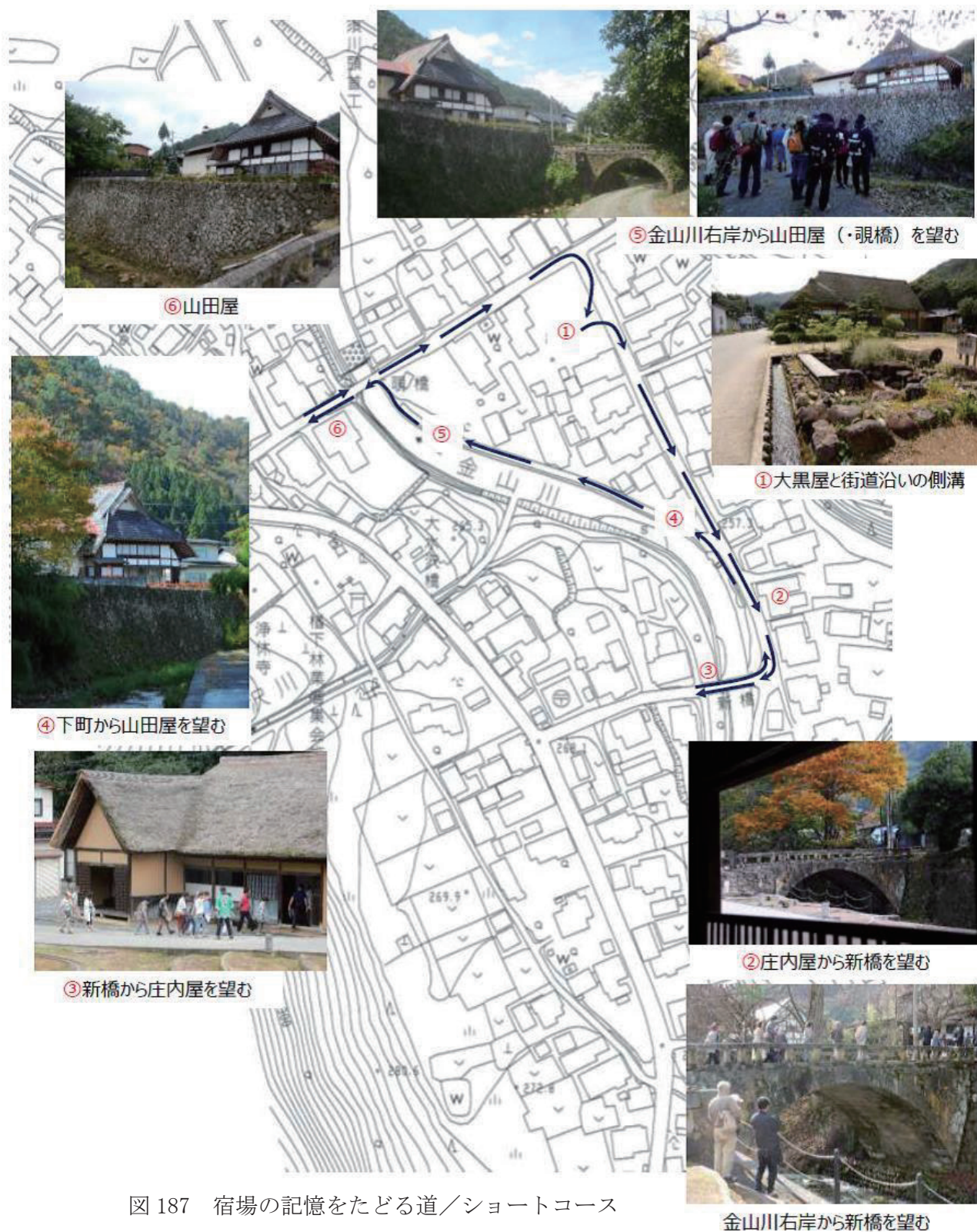


図 187 宿場の記憶をたどる道／ショートコース

(2) 宿場の記憶をたどる道／ショートコース／所要時間約60分

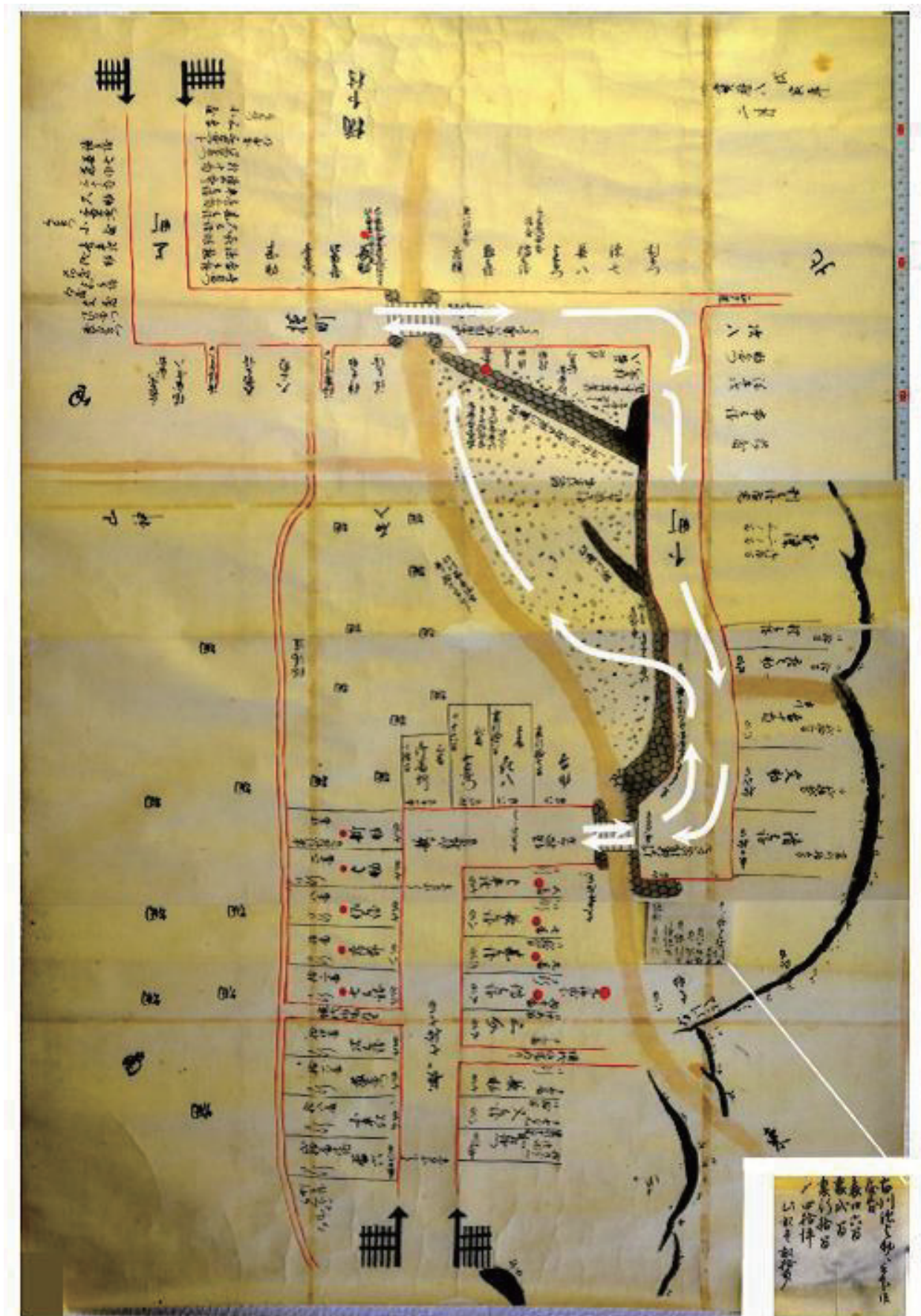


図188「宝暦8（1758）年檜下村絵図」に見学動線（白矢印）を記入

(3) 宿場の記憶をたどる道／ロングコース／所要時間約180分／ガイドンス施設含む

①ガイドンス施設「滝沢屋」→宿頭→②新町→橋本屋→③新橋→庄内屋→④下町→大黒屋→
⑤横町→硯橋→山田屋→旧福聚寺参道→旧福聚寺跡→⑥浄休寺→⑦上町→宿尻

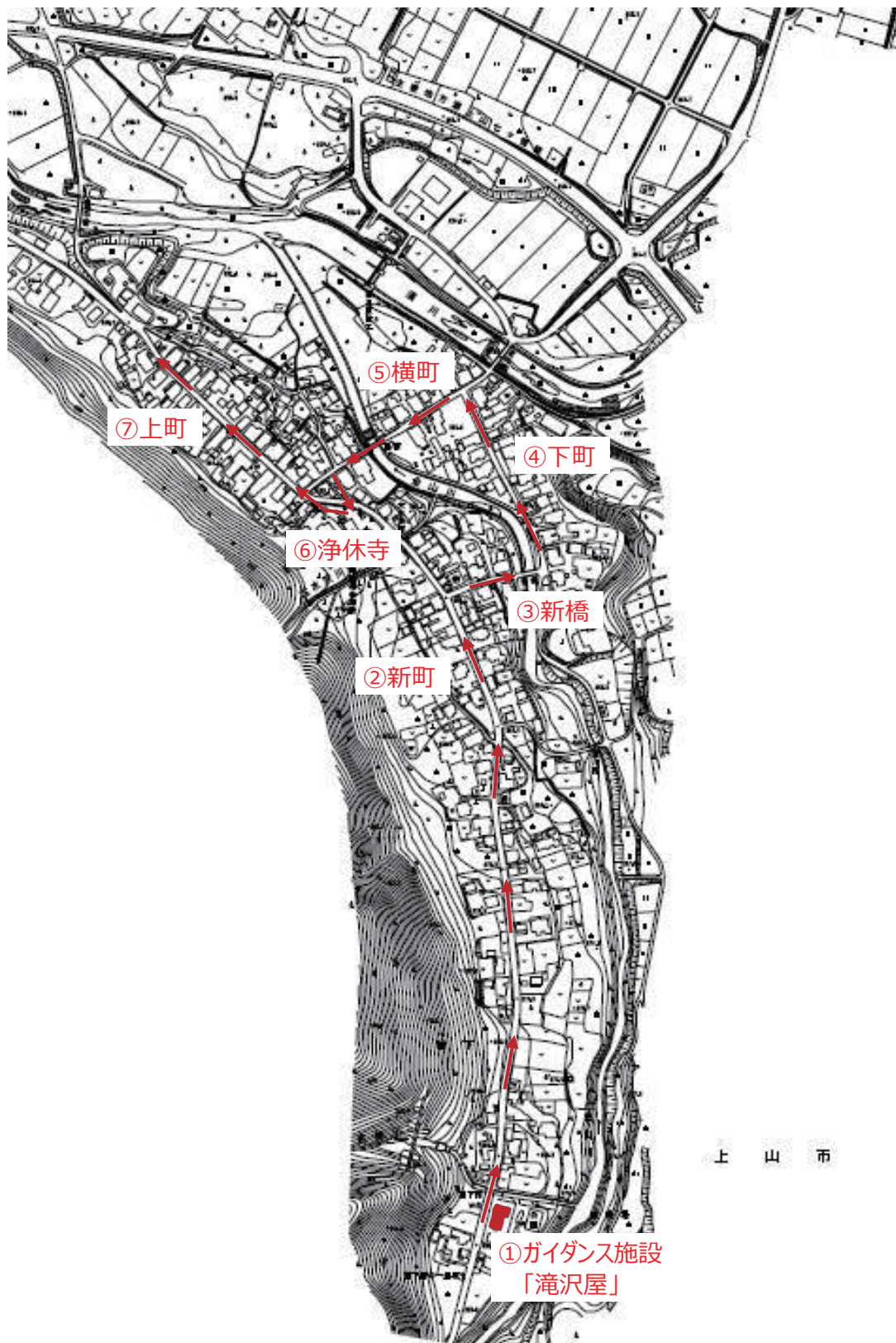


図 189 宿場の記憶をたどる道／ロングコース

【金山越】

(1) 金山越の往時を体感できる道

金山集落と金山峠を結ぶ金山越羽州街道は、1本の道であり、街道沿いには、往時の面影を今に伝える石積みや馬頭塔、街道縁石などの街道関連遺構が多く現存している（図190～図193）。

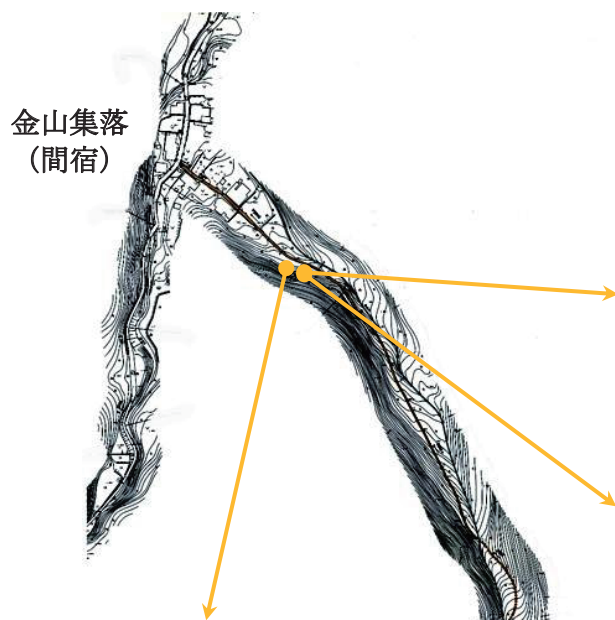


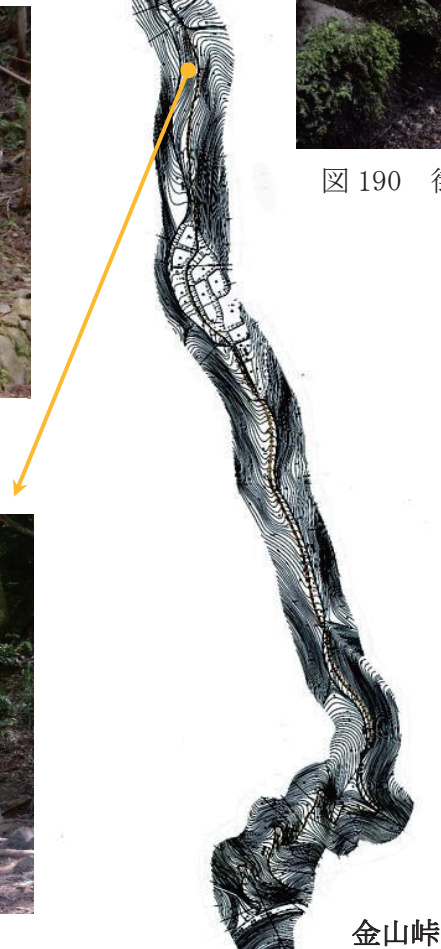
図190 街道と沿道の石積み



図191 湯殿山碑と八日講供養塔



図192 馬頭塔



金山峠

図193 金山越の往時を体感できる道

5-4-5 史跡管理用道路

【金山越】

主要地方道上山七ヶ宿線から史跡に通じる林道がある（図195）。

沿道の「金山峠21」表示地点（図194）南側から金山に入り、林道を約200m移動すると羽州街道金山越の災害復旧No. 14地点に通じる。この林道から保全活動で使用する資材や燃料を搬入しているほか保全活動の際の連絡通路としても利用している（図196／図198）。

この林道は、幅員が約2mあるため、緊急時には小型車両で史跡手前の木橋まで進入することが可能である。

なお、小型車両は木橋を渡ることができないため、今後は緊急時に車両が進入できるように木橋の拡幅整備を検討する（図200）。



図 194 「金山峠 21」表示



図 195 史跡に通じる林道（赤線）



図 196 保全活動で使用する物資の搬入



図 197 上写真右が史跡に通じる林道入



図 198 保全活動時の連絡通路として利用



図 199 定期的な除草と枝払いが必要



図 200 林道と史跡を結ぶ木橋（幅員 70cm）